

Book Review

歯科衛生士が知っておきたい よくわかる口腔インプラント

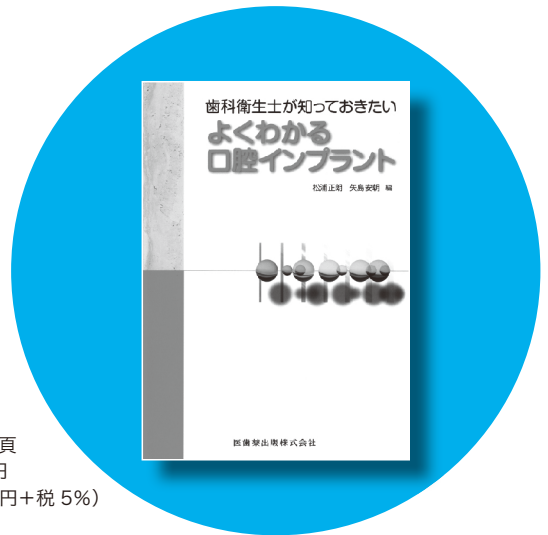
松浦正朗・矢島安朝 編



Reviewer

武田孝之 Takayuki Takeda
(東京都・武田歯科医院)

B5判, 152頁
定価 5,880円
(本体 5,600円+税 5%)
医歯薬出版刊



歯科医療を取り巻く環境は、ますます厳しくなっていると言われる。そのなかで、インプラント治療に大きな期待を寄せている歯科医師が増えているのも現実である。

一方、従来の補綴法にはない大きな効果を患者に供与し、患者個人のQOLの向上はもとより健康で長寿を目指し、さらに、社会に対しては医療費を削減することを目指す一手法として、インプラントに取り組んでいるグループもある。

このような社会情勢のなかで、われわれ歯科医療従事者が真剣に考えなければならないことの一つとして、患者、社会が安心して、そして、安全に医療を受けられる環境をつくることにある。その意味において歯科医師の力は限られており、歯科衛生士、その他の医療スタッフ、そして、歯科技工士も含めて総力をあげて取り組む必要に迫られている。

本書は歯科衛生士向けに書かれたものであるが、実際には歯科従事者皆に共通して肝に銘じておかなければならないことが、随所にちりばめられている。

特筆すべきは、プロローグにある。「インプラント治療において歯科衛生士が主導して関与すべき3つの場面と3つの要件」が本書の底流をなしている。これはインプラント治療に限ったことではなく、歯科医療全般に共通することである。

3つの場面として、「1:患者-歯科衛生士間の信頼関係の構築」「2:埋入手術」「3:メンテナンス」とある。そして、3つの要件として、「1:高いコミュニケーション能力」「2:治療に関する正確な知識」「3:チーム医療の一翼を担っているという意識と優れた技術力」とある。

この基本的な考え方は、お互いに交錯して、それぞれの場面で必要となる。

日常臨床を行っていて、まず大切なことは患者がどんな思いで医療機関を訪ねてきたのか、何を問題とし、何を解決したいと考えているのか、これまでの医療機関を転院して来た理由は何か、医療面接を通して可及的に短時間で把握しなければならない。

その際にも正しい専門知識をやさしい言葉で伝えることは言うまでもない

が、なによりも患者の言葉、思いを受け止めてから話を進めていくことが肝要となる。

ややもすると歯科医師、歯科衛生士ともに知識、技術の習得に時間を割くことが多くなり、対人間としてコミュニケーションを図ることを意識的に行わない医療者が多い。しかし、患者が最も感じるのは、心から患者のことを考えているかどうかであり、安心して医療を受けたいということを大切にすべきである。そこが適切でないと、いかに高い技術を有していても、患者にとって最後の医療機関とはなりえないのである。

次に重要なことは、安全で効果的な医療を提供できるかどうかである。その前提として正確な知識、技術が求められることは言うまでもない。歯科医師はもちろんのこと、歯科衛生士が共通の知識を有し、さらに確実な技術によって治療、メンテナンスを行わなければならない。

医療に普遍的な重要事項を、インプラント治療を通して、そして、歯科衛生士を対象として書かれた本書を手元において役立てていただきたい。